

ゆりのき台小コミュニティ・スクールだより



2020年10月号

発行者 ゆりのき台小学校 学校地域運営協議会

「人のつながりに感謝」

ゆりのき台小学校地域運営協議会委員 服部 つね子（ゆりのき台民生委員・児童委員）



私の家からすぐ近くにお住いの方から「ミシンボランティアやってもらえませんか？」と声をかけられ、ミシンの苦手な私は、どうしよう、でも子供たちが初めてミシンを扱うんだから、それぐらいのお手伝いならと受けることにしました。5年生のナップザック、6年生のエプロン制作の見守りです。困っている子がいたらやさしく声かけし、アイロンの扱い方など事故が無いように気をつけます。

子どもたちは初めてのミシンにイキイキとして取り組み、「ボランティアさ～ん、教えてください。」と助けを求めてきたら優しく丁寧に丁寧に。「ミシンは面白い！もっと縫ってみたい！」と、そんな気持ちになってもらえたら言うこと無しですね。

ミシンがきっかけで、ゆりっこ広場、そろばん、新入生の4月5月の下校見守り、花植えと引き受けてきました。今年は1年生の給食配膳のボランティアにも挑戦してみました。

そんな中で、ふと感じることがあります。この子たちと同じ学校生活をしてきた我が子の事です。私は、その様子を見ることは出来なかったけど、どれだけ先生方のお世話になったことか。クラスをまとめていかれる大変さを実際にこの目で見て感じたのです。

ボランティアは楽しんでやるもの。無理をしないで出来る時に、出来る時間で。私が10年からやってこれたのも、私たちを取りまとめて下さってる「学校支援コーディネーター」の方のお人柄です。そしてメンバーの皆さんの優しさです。

ボランティアの合い間の休憩時に、若い世代の方々と子育てについて、両親のこと、趣味のこと等で交流できるのも大きな喜びです。

※新型コロナウイルスの影響で遅れていた学校地域運営協議会が7月日に開催され、新しい委員さんを迎えてスタートしました。今年新しく委員になられた皆さんの紹介を兼ねて、普段思っていることなどを寄稿していただきます。

学校・地域・家庭の

連携協働

地域教育力

地域活動協議会の毎日ラジオ体操に夏休みから続けて参加している子が、体操が終わると自主的に旗を片づけてくれるようになりました。毎日地域の人がやっていることを見ていたからでしょう。

ラジオ体操であった光景は、地域活動に参加した大人と子どもが出会い、知り合い、生まれたように思います。地域教育力という大そうですが、こんなささやかなことの積み重ねで良いのではないのでしょうか。しかし、子どもが学校を卒業すると、多くの人は子どもたちのいる場所と縁がなくなり、地域の大人が子どもに接する機会もなかなかありません。

そんな中、学校が学校支援や放課後子ども教室の活動を通して「地域の大人と子どもの出会いの場」にもなっています。保護者を含め地域の大人の皆さん、学校でも家庭でもない第三の場で、地域の子どもの学びと育ちを応援してください。

